

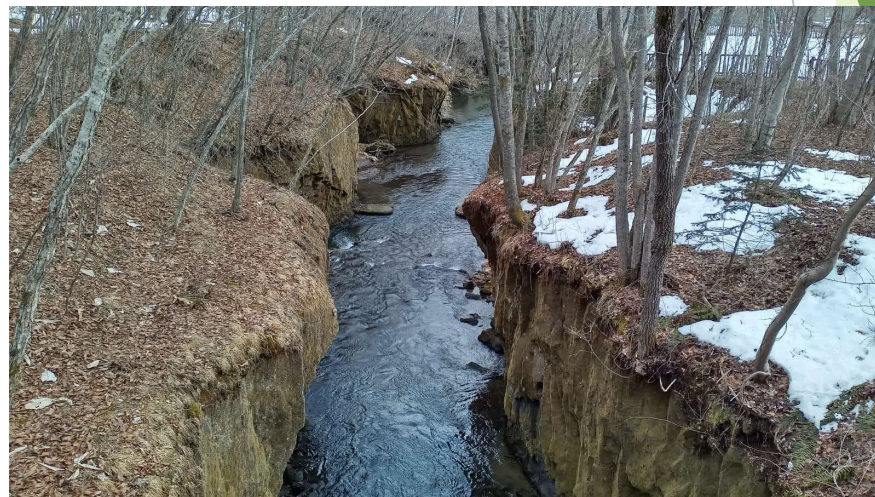
樽前ガローの在り方について

意見及び課題の集約・整理結果

令和5年3月20日

第2回 苫小牧市自然環境保全審議会

早春の樽前ガロー (R5.3.14撮影)



本日の審議会（SWOT分析・意見交換）

- ▶ 課題、意見を「強み」「弱み」「機会」「脅威」として整理し、樽前ガロ-の現状を客観的に分析・把握する
- ▶ 審議会委員各位の樽前ガロ-の現状に対する認識を共有する

R5年度第1回審議会（現地視察）

R5年度第2回審議会（クロスSWOT分析※）

R5年度第3回審議会（在り方素案の検討）

※SWOT分析で洗い出した「強み」「弱み」「機会」「脅威」をそれぞれ掛け合わせることで、各領域の検討の観点を明らかにする分析手法

【参考】SWOT分析とは

SWOT分析とは、事業計画を立てるにあたって、自社の現状を把握するためのフレームワークです。SWOT分析をすることで、何も無いところから手探りで計画を立てるよりもスムーズに、かつ筋道の通った思考をすることができます。

なお、SWOT分析の「SWOT」は、下記の頭文字を取ったものです。

<SWOTの構成要素>

- ・ S...Strength (強み)
- ・ W...Weakness (弱み)
- ・ O...Opportunity (機会)
- ・ T...Threat (脅威)

出典：三井住友銀行 Business Navi～ビジネスに役立つ情報～

樽前ガロー SWOT分析

強み（内的要因）

- ▶ 良好な**景観**を見せることで環境や関連する取組を広くアピールできる
- ▶ **自然**はそのまま現状維持してほしい（現状の自然環境が良好）
- ▶ 溪流の両側の**コケに覆われてる岩肌**は学術上において大切な資源
- ▶ 秘境のような**景観**が魅力である
- ▶ **景観**が第一、間違いなく活用を図ることができる資源
- ▶ **周辺の植物**も資源になり得るので、簡単な植生調査を行い、樹名板を付ける等を行うことができればよい

機会（外的要因）

- ▶ 樽前山は、錦岡以西から見た方が美しい形で見える。ガローだけでなく**樽前山ビュースポット**も同時に検証し、苫小牧市の多様な自然の**アピール**とする
- ▶ 錦岡方面は白老へも繋がっているのでもったいない。これを期に**西側全体を捉えることをしてほしい。（錦大沼公園、錦多峰川のサケの朔上など）**
- ▶ 個人サイト「樽前ガロー入渓ポイント解説」は分かりやすい※

弱み（内的要因）

※内容別掲

脅威（外的要因）

- ▶ 苫小牧市は**西側地区の観光が弱い**ように感じる。（東はウトナイ湖や道の駅がある。）
- ▶ 個人サイト「樽前ガロー入渓ポイント解説」は分かりやすい※→崖下への立ち入りが増えるのでは？
- ▶ **拙速な活用計画策定**は最も避けるべき
- ▶ **整備や立入による環境の変化**
- ▶ 来訪者増加に伴う**周辺民有地の開発、利用**
- ▶ 看板や誘導路等人工物をどのように設置、整備するか（**自然、景観との調和**）
- ▶ 看板等について**規模やデザインの統一等の基準が必要**
- ▶ 現地の**情報の共有**が必要（環境保全課・緑地公園課・美術博物館等）
- ▶ 多くの市民に見ていただきたい反面、**自然破壊が心配**

強み（内的要因）

- ▶ 良好な**景観**を見せることで環境や関連する取組を広くアピールできる
- ▶ **自然**はそのまま現状維持してほしい（現状の自然環境が良好）
- ▶ 溪流の両側の**コケに覆われてる岩肌**は学術上において大切な資源
- ▶ 秘境のような**景観**が魅力である
- ▶ **景観**が第一、間違いなく活用を図ることができる資源
- ▶ **周辺**の**植物**も資源になり得るので、簡単な植生調査を行い、樹名板を付ける等を行うことができればよい

弱み（内的要因）①

- ▶ **アクセス、案内がわかりにくい**（駐車場も含めて）案内看板をわかりやすくする必要がある
- ▶ 案内板や柵、ビュースポットの設置を行い、**動線を分かりやすくしてほしい**、ビュースポットへのしっかりとした誘導が必要、
- ▶ **複数箇所のビュースポットの確保が必要**
- ▶ 「高台」などを設置してあずまや付近から樽前ガローを眺めることができる設備を作ってほしい。（**あずまや付近の展望が良くない**）
- ▶ **トイレがない**
- ▶ 観光などにもっと活用してほしい（**活用されていない**）
- ▶ HPなどで詳しく発信した方がよい（**発信が弱い**）、PRに工夫が必要
- ▶ **来訪者の確保**
- ▶ **不法投棄やマナー違反等**に対する見回り、監視が必要

弱み（内的要因）②

- ▶ 現地ガイドの育成が必要（ガイドがない）
- ▶ 定期的、継続的な動植物の調査が必要
- ▶ 溪流の両側のコケに覆われてる岩肌は学術上において大切な資源であり、活用だけではなく、自然環境をどのように守り将来へ引渡していくのか、広域かつ長期的な視点で捉えるべき
- ▶ 1箇所でも構わないので水面近くで見られる場所がほしい（見られる場所がない）地面、岩の崩落対策をしつつ子供や体力のない人でも見られると良い
- ▶ 安全の確保が必要、指定した箇所以外の立ち入りは罰するべき
- ▶ ヒグマが生息する
- ▶ 橋の上から等少し離れたところから見るのも良いが、やはり川辺等近くから見たいと思う人がいると思う。そのためメリハリをつけた対策が必要。
- ▶ 観光資源として大切なことは「いかにして滞在時間を稼ぐか」。せめて半日はいてほしい。（現状では滞在時間が短い）

機会（外的要因・・・機会、好機）

- ▶ 樽前山は、錦岡以西から見た方が美しい形で見える。ガローだけでなく**樽前山ビュースポット**も同時に検証し、苫小牧市の多様な自然のアピールとする
- ▶ 錦岡方面は白老へも繋がっているのもったいない。これを期に**西側全体を捉えることをしてほしい。（錦大沼公園、錦多峰川のサケの朔上など）**
- ▶ 個人サイト「樽前ガロー入渓ポイント解説」は分かりやすい※
- ▶ **アルテンに来るお客さん**には徒歩30分圏内として宣伝することはできるので。自転車（サイクリング）もありではないのか。
- ▶ 樽前ガローも含めて「**樽前山（あるいは苫小牧）サイクルロゲイニング ※※**」の開催も面白いのでは。

※ 脅威にも同内容を記載

※※ 時間内に地図を頼りに自転車であらかじめ決められたチェックポイント⁹を出来るだけ多く回り、獲得した点数を競う競技

脅威（外的要因・・・脅威、リスク）

- ▶ 苫小牧市は**西側地区の観光が弱い**ように感じる。（東はウトナイ湖や道の駅がある。）
- ▶ 個人サイト「樽前ガロー入渓ポイント解説」は分かりやすい※→崖下への立ち入りが増えるのでは？
- ▶ **拙速な活用計画策定**は最も避けるべき
- ▶ 整備や立入による**環境の変化**
- ▶ 来訪者増加に伴う**周辺民有地の開発、利用**
- ▶ 看板や誘導路等人工物をどのように設置、整備するか（**自然、景観との調和**）
- ▶ 看板等について規模や**デザインの統一等の基準が必要**
- ▶ 現地の**情報の共有**が必要（環境保全課・緑地公園課・美術博物館等）
- ▶ 多くの市民に見ていただきたい半面、**自然破壊が心配**
- ▶ 樽前ガローはウトナイ湖などの**ほかの観光地と少し離れていて、孤立している感もある**ので**アクセス**の問題がとても重要

他の機会・脅威（補足、機会にも脅威にもなり得る要因）

- ▶ 新型コロナウイルス感染症に係る規制緩和（入国制限の緩和・撤廃、マスクの着用、感染症法上の位置付けの変更など）
→国内外からの観光客増加の可能性
- ▶ 令和5年9月11～14日、アドベンチャートラベル・ワールドサミットが札幌市で開催される
→自然、文化、アクティビティを含むツアーに対する注目が高まる可能性
- ▶ インフルエンサー・マスコミによる情報発信（SNS、マスメディア等）
機会 → アクセスを支援する情報、景観など魅力の発信・拡散、知名度向上
脅威 → 誤った情報、崖下の画像の発信拡散、オーバーユース